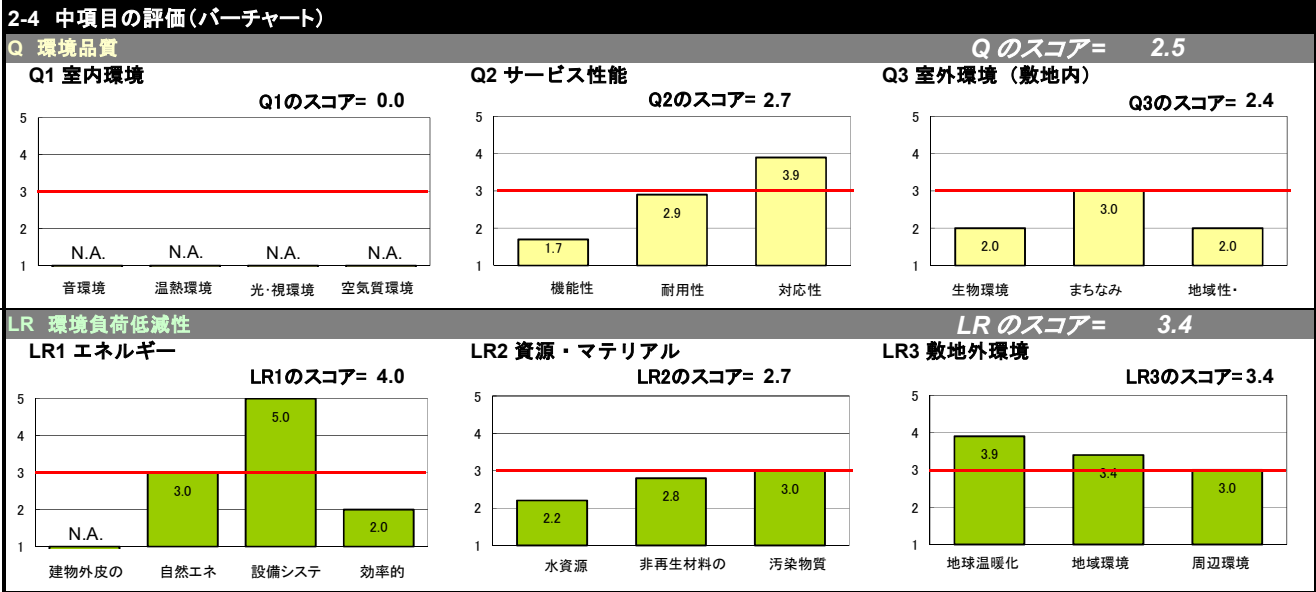
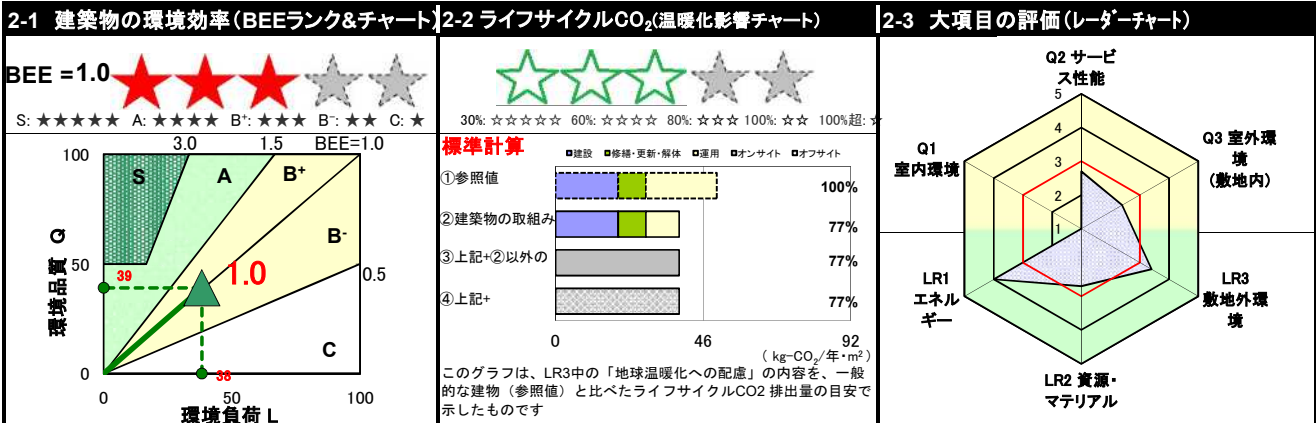


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社エヌエー 第2工場	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市浜名区新原 3871-38	構造	S造
用途地域	無指定・法第22条区域内	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,660 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年9月 予定	評価の実施日	2025年3月25日
敷地面積	3,427 m ²	作成者	和田設計 和田中生
建築面積	1,110 m ²	確認日	2025年3月25日
延床面積	2,078 m ²	確認者	浜松市建築行政課



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
これは、CASBEE静岡 2021SDGs対応版による評価結果である。(※SDGsは考慮しないものとする。)本建物は、本社工場の設備拡大に伴い、近隣の敷地に第2工場を建設するに至った。計画地は市街化調整区域であるため、壁面後退5.0mの緩衝帯を設け、緑地が敷地周囲を連続するように外構植栽を行った。		特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
工場のため、評価対象外。	工場は大空間を確保するため、壁プレス等を配置しない鉄骨ラーメン構造とした。工場の床には耐久性のある材料を採用し、メンテナンスが極力かからないように配慮した。	敷地周囲を緑化し、周辺環境へ配慮した。また、閉鎖的な空間にならないように見通しを確保し、境界部には、進入防止のため、見通しが良いメッシュフェンスを設置した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
すべての照明にLEDを採用し、省エネに配慮した。	ビニル系床シートにエコマーク商品を採用した。	気象データを把握し、雨水排水の抑制のため、開発行為の指導に基づき、調整池を設置し、敷地外道路側溝への負担軽減を図った。交通負担軽減のため、出入口に回転灯及びミラーを設置した。また、余裕のある荷捌きスペースを確保した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要									
建物名称	株式会社エヌエー 第2工場				BEE	1	BEEランク	B+	★★★
2. 重点項目への取組み度									
重点項目	得点※/満点		取組み度				評価		
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	2.8	/5					がんばろう 		
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.9	/5					がんばろう 		
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.0	/5					ふつう 		
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.7	/5					がんばろう 		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例		よい 4 点以上 	ふつう 3 点以上 	がんばろう 3 点未満 		
3. 重点項目についての環境配慮概要									
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					内訳対応項目				
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)					得点		2.8		
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④躯体劣化等級2 / SUS7-トの採用。/給排水 配管ランクB 2種以上採用/給排水 構造材を痛 めることなく更新ができる。				Q-1 2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
					Q-1 3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
						3.2	3.2.1	③	昼光制御
					Q-2 2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
							2.2.2	⑤	外壁仕上げ材の補修必要間隔
						2.2.3	⑥	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
						2.2.4	⑦	空調換気ダクトの更新必要間隔	
						2.2.5	⑧	空調・給排水配管の更新必要間隔	
						2.2.6	⑨	主要設備機器の更新必要間隔	
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。/荷捌きスペースに大底の設置				Q-3 1			⑤	生物環境の保全と創出	
				3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑨すべての照明にLED照明の採用。				LR-1 1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
				2			⑧	自然エネルギー利用	
				3			⑨	設備システムの高効率化	
				4	4.1		⑩	モニタリング	
					4.2		⑪	運用管理体制	
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫ビニル系床材にエコマークを採用。				LR-2 1	1.1		⑪	節水	
					1.2	1.2.1	⑫	雨水利用システム導入の有無	
						1.2.2	⑬	雑排水等利用システム導入の有無	
				2	2.1		⑭	材料使用量の削減	
					2.2		⑮	既存建築躯体等の継続使用	
					2.3		⑯	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
					2.4		⑰	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
					2.5		⑱	持続可能な森林から産出された木材	
					2.6		⑲	部材の再利用可能性向上への取組み	
				3	3.1		⑳	有害物質を含まない材料の使用	
					3.2	3.2.1	㉑	消火剤	
						3.2.2	㉒	断熱材	
						3.2.3	㉓	冷媒	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭LED照明の採用により、省エネルギー対策を実施。ライフサイクルCo2 評価対象排出率72% ⑮燃焼機器を使用していない				LR-3 1			⑭	地球温暖化への配慮	
				2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)					得点		2.9		
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰換気扇のフードは、SUS製を採用/浄化槽を設置し、災害時の汚水処理に備える。				Q-2 2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
							2.1.2	⑰	免震・制振性能
						2.4	2.4.1	⑱	空調・換気設備
							2.4.2	⑲	給排水・衛生設備
							2.4.3	⑲	電気設備
						2.4.4	⑲	機械・配管支持方法	
						2.4.5	⑲	通信・情報設備	
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)					得点		3.0		
	■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり) ⑲余裕のある階高				Q-2 1	1.1	1.1.3	⑯⑲	ユニバーサルデザイン計画
					3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
							3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) ⑲敷地周囲を緑化し、周辺環境へ配慮した。また、閉鎖的な空間にならないように見通しを確保し、 境界部には見通しの良いメッシュフェンスを設置した。				Q-3 3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上	
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)					得点		2.7		
	■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/⑲まちなみ・景観への配慮/⑲敷地内温熱環境の向上) ⑲計画地は市街化調整区域であるため、壁面後退5.0mの緩衝帯を設け、緑地が敷地周囲を連続す るように外構植栽を行った。				Q-3 1			⑲	生物環境の保全と創出
					2			⑲	まちなみ・景観への配慮
					3	3.2		⑲	敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/⑲温熱環境悪化の改善)				LR-2 2	2.5		⑲	持続可能な森林から産出された木材	
				LR-3 2	2.2		⑲	温熱環境悪化の改善	